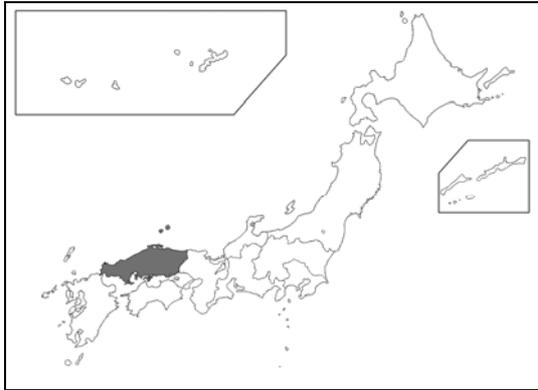


## (8) 中国



中国地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〓は上方に変更、〓は下方に変更)

### 前回調査からの主要変更点

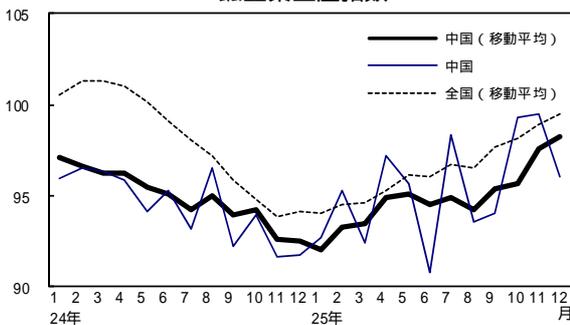
	前回(平成25年11月)	今回(平成26年2月)	
景況判断	持ち直し	緩やかに回復しつつある	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	持ち直し	
個人消費	持ち直しの動きに一服感	持ち直し	
雇用情勢	改善	着実に改善	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は持ち直している。

10~12月期には、輸送機械は、新型車効果等から増加した。化学は、工場の定期修理の反動増があったこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、このところ火力発電所向けのはん用機械の受注が以前より少なくなってきたこと等から減少した。鉄鋼は、生産ラインのメンテナンスに向けた在庫の積み増しがあったこと等から増加した。電子部品・デバイス、光電変換素子が増加したこと等から増加した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

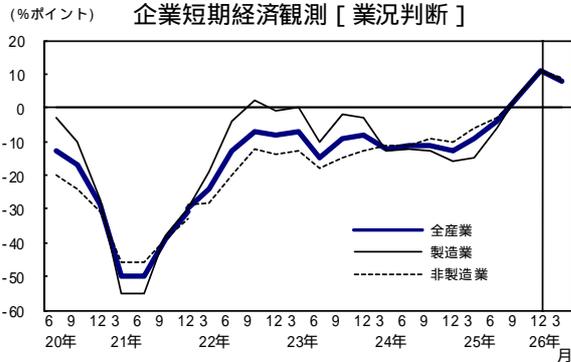
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.5	0.7	9.1	5.8	3.3	4.0
化学	16.4	6.2	10.5	11.2	1.2	1.7
はん用・生産用・業務用機械	11.2	5.4	2.5	18.4	8.8	14.0
鉄鋼	7.7	2.7	3.0	3.1	4.1	3.0
電子部品・デバイス	7.1	1.3	1.4	5.9	2.5	1.3
鉱工業	100.0	0.8	3.0	5.5	0.2	3.4

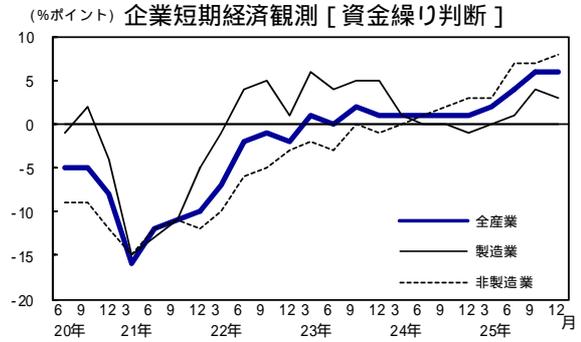
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10~12月期、12月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

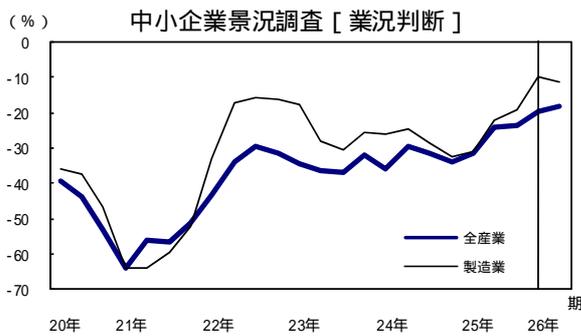
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年3月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

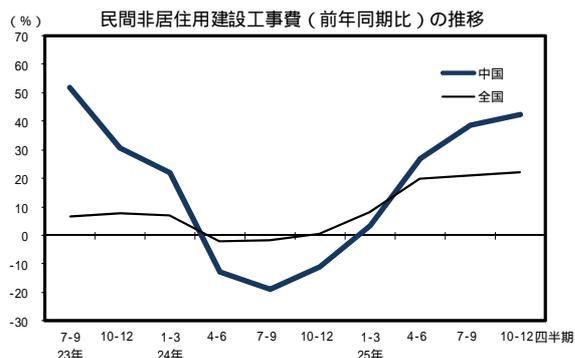


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「品質面や円安傾向を背景とした日本国内造船所への発注の回帰、米国シェールガス輸送のLNG運搬船の需要等、国内造船所の仕事量確保に明るい話題が出そろい始めた(輸送用機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度概
全産業	2.0	2.8 (1.9)
製造業	0.6	4.5 ( 1.9)
非製造業	4.1	14.0 (7.3)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.3%増、11月は同0.1%増、12月は同1.5%増となった。

大型小売店販売額

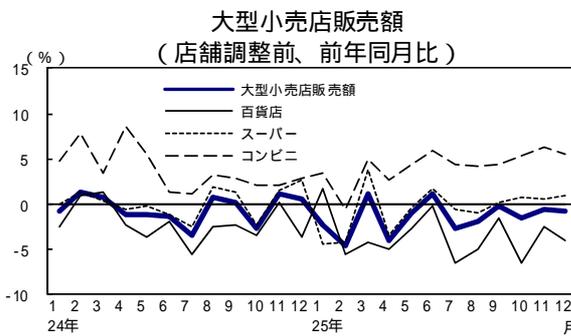
百貨店は、10月は昨年と比べ暖かかったため衣料品が振るわなかったこと等から前年を下回った。11月は衣料品や飲食料品等が昨年と比べて振るわなかったこと等から前年を下回った。12月も引き続き衣料品や飲食料品が昨年と比べて振るわなかったこと等から前年を下回った。

スーパーは、野菜の相場高等により、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、53.8となり前月より0.1ポイント上昇した。

「来客数は横ばい状態が続いている。高額商品は好調であるが、当店のよう単価の低い店はあまり伸びがない(その他専門店 [ファッション雑貨])」など、「変わらない」とする回答が増加した。

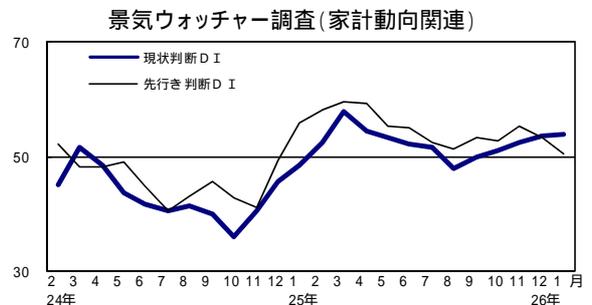
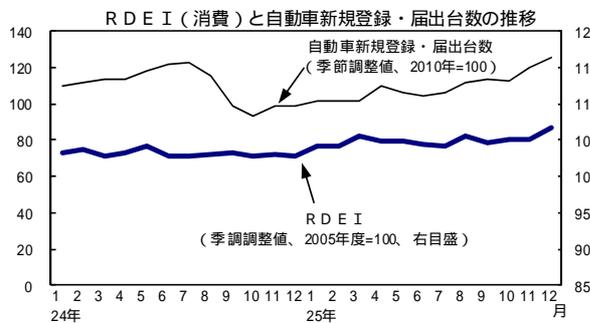


	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.8	0.3	0.1	1.5
大型小売店(*2)	1.0	1.6	0.6	0.8
百貨店(*2)	4.3	6.5	2.5	4.0
スーパー(*2)	0.8	0.7	0.6	1.0
コンビニ(*2)	5.7	5.3	6.3	5.6
乗用車(*3)	22.2	18.4	19.7	28.9
(季節調整値)(*3)	8.4	0.1	6.3	4.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

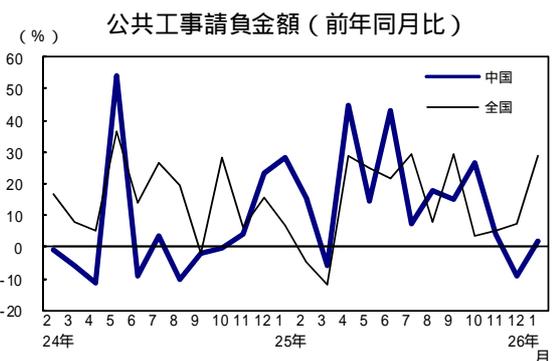
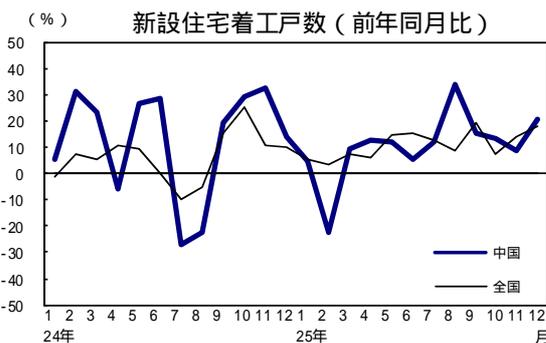
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



### (2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

### (3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

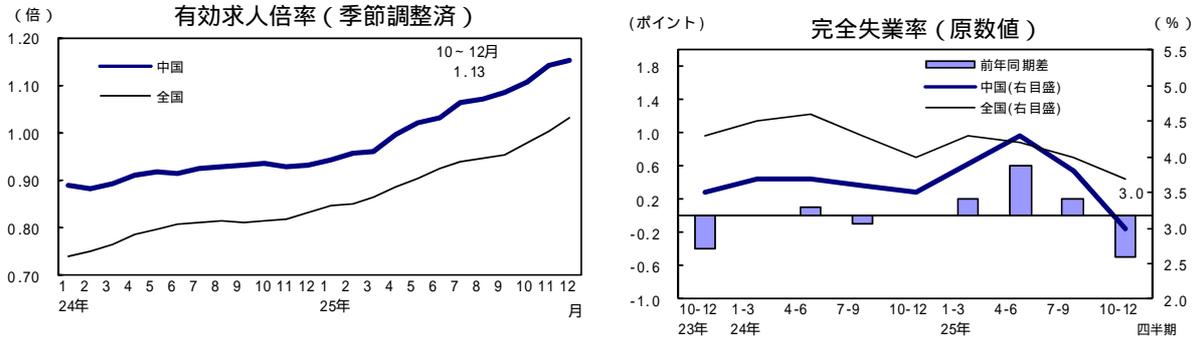


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

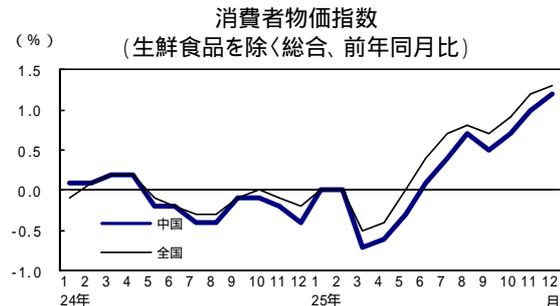
「新規求人数は増加を続けている。業種別では、建設業、製造業、運輸業、卸・小売業、医療・福祉など、ほとんどの業種において増加している。特に、派遣事業者からの求人申込が目立っている (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
倒産件数	127	126	121	111	38
(前年比)	2.3	7.7	10.4	15.9	8.6
負債総額	265	719	177	206	100
(前年比)	34.7	197.3	9.7	11.9	5.6



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・ギフト解体セールが、例年以上に人気を集めている。油、コーヒー、のり、酒など、保存のきく商品に人気が集中している。4月の消費税増税を控え、客にまとめて買う姿勢が強まっている。また、ファッションでも、春物の先行購買も目立っている (百貨店)

<先行き>

・消費税増税前の駆け込み需要で好調に推移する。しかし、3月に入ると納期が間に合わないケースが出てくるため、勢いは低下する (乗用車販売店)

